

学校だより(根上)

令和元年7月23日発行 校長 石田 恵一

加賀地区大会・県大会を終えて

加賀地区大会、県大会を終え多くの3年生が部活動を終えました。県大会では、野球部が見事優勝し、北信越大会の出場を決めました。陸上部は、男子リレーと個人では安田信志くんが100M、大杉浩史くんが400M、塚野岳陽くんが4種競技、沖田優奈さんが1年100Mで北信越出場を決めました。男子リレーと安田信志くんは100Mと走幅跳でも全国大会の出場も決めています。

部活動は、楽しいことも多いけど、練習は苦しく、思うように成績が伸びなかったり、時には人間関係で悩んだり、みんなが苦しいことを乗り越えて最後の大会を迎えます。先日、最後の大会を終えた、テニス部の子ども達の感想文を見せてもらいました。そこには、苦しいことや辛いことを乗り越えてきたという思いや、やり遂げた達成感、今までの取組や力を出し切れなかったことに対する後悔の気持ちなどがぎゅうぎゅう詰まっていて、感動して何度も読み返しました。特に嬉しかったことは、どの子も、最後に支えてくれた先生や仲間達への感謝の気持ちを書いていることです。部活動は、人として大切なことを学ぶ場所だと改めて思いました。たくさんの感想文の中から、一人の子の思いを要約して紹介します。

少しの興味と大きな不安をもってテニス部に入部しました。体験入部からきついトレーニングを経験し、辛かったです。でも、時が経つにつれて、先輩の姿を見て、「自分もこんなふうになりたい」という思いが芽生え、ボール拾いやコート整備に積極的に取り組むことからはじめました。一人で行動できるようになるといろんな場面で役に立っているので良かったなと感じています。ところが、去年の今頃、3年生の先輩が引退し、私たちが部活動を運営しなければならない状況に置かれた時、3年生がいなくなるとこんなに何も出来なくなるんだと何をすればよいのかわからず、甘えていた自分、頼っていた自分が見えてきました。そんな中、キャプテンという重要な役割を任せられ、初めは不安でいっぱいだったし、辛いこと、我慢しなければいけないこともあったけど、ここまで頑張ってきたのは、いつも側で支えてくれた3年生19人、こんな私についてきてくれた2年生12人、そして、短い間だったけど私達の最後の大会のため、たくさん協力してくれた1年生10人。41人のテニス部のメンバーがいたからです。テニス部のキャプテンができて本当に幸せでした。

また、先生には大変お世話になりました。中谷先生には本当に短い間しか一緒にテニスができなかったけど、いつも私に勇気を与えてくれる言葉をたくさんくれました。先生は残り少ない私の部活動生活を変えてくれたし、だからブロックでも最後まで気持ちは下がらなかったし、練習の成果を発揮することができました。池田先生には私達が入部した時からずっと温かく見守ってくれました。辛くて落ち込んでいる時、「キャプテン頑張れ!」と声をかけてくれたことを今も覚えています。そのたった一言が私にとって、とても大きな力になり、そこから立ち直ることができました。

2年生には、うまくまとめられない時もたくさんあって先輩としていい手本になれない時もたくさんありました。それでもどんどん上達する姿は、私にとっては誇らしく、みんなの成長に感動しました。1年生も、自分たちが1年生の時と違い、ここまで動けるのか、ここまで声が出るのかと驚くことがたくさんありました。2年生についていき、県大会出場を目指してください。辛いメニューもたくさんあって、投げ出したくなることもあるかもしれませんが。そんな時こそ笑ってください。